初夏の只見町を感じる 「町民ハイキング」開催

「町民ハイキング」が、６月１２日に只見公民館の主催で開催され、親子や役員を合わせて約２０人が参加しました。

開会式は、只見地区地域づくり委員会の鈴木厚会長があいさつを務め、準備運動として参加者全員でラジオ体操を行いました。

コースは、只見線広場から瀧神社を参拝し、農道を通り三石神社で折り返しました。

また、終了後には抽選会が行われ、参加者は楽しい時間を過ごしました。

▲ハイキングを楽しんだ参加者の皆さん

ブナ林で爽やかな初夏を楽しむ ブナセンター自然観察会「初夏のブナ林観察会」

▲解説を聞く参加者と解説者を務めた紙谷館長

「初夏のブナ林観察会」が６月１８日に、ただみ観察の森梁取のブナ林（学びの森）にて、只見町ブナセンターの主催で開催されました。

観察会では、観察路で見られる樹木６２種のリストが配布され、参加者は林内を歩きながら気になった樹木の枝葉を採集しました。

参加者が採集した樹木は、紙谷ブナセンター館長より樹種名と見分け方、特徴、生態等を解説しました。

当日は暑い位の気温となりましたが、散策の途中では冷たいブナ林ブレンド茶も振舞われ、爽やかな初夏のブナ林を楽しむ観察会となりました。

町内で繁殖する鳥たちを観察 ブナセンター観察会「春から初夏の野鳥観察会」開催

「春から初夏の野鳥観察会」が只見町ブナセンターの主催で開かれました。４月から６月はオシドリやオオルリなど、只見町で繁殖する鳥類の観察に適しており、全５回に渡って町内各地で観察会を行いました。

１回目は叶津、２回目は石伏、３回目は新田沢、４回目は塩ノ岐、５回目は毘沙沢を観察地とし、延べ５０種が確認されました。オオアカゲラやアカショウビン、ノジコなどの珍しい夏鳥も出現し、町内で繁殖する鳥類の多様性を確認することができた観察会となりました。

▲樹上の鳥類を観察する参加者

只見町での子育てを考える「子ども子育て講演会」開催

「子ども子育て講演会」が６月２３日に朝日公民館で開催され、約４０人が参加しました。福島県認定こども園協会長を務める学校法人まゆみ学園理事長の古渡一秀氏が『只見町のちびっ子町民の未来へ　幼児教育の重要性と持続可能な只見町へ』をテーマに講演しました。

古渡氏は、「幼児期の教育が子どもの将来にとって重要です。今ここにいるすべての人が子育ての担い手です」と子どもを中心としたまちづくりの大切さについて話し、只見町における認定こども園の必要性についても触れました。

▲古渡氏は「幼児教育は高度なスキルを持った人材育成に繋がる」と話しました

幼児のうちから歯を守る「第２回かるがもクラブ」開催

▲かるがもクラブに参加した皆さん

「第２回かるがもクラブ」が、６月２３日に保健福祉センターで開催され、７組の親子が参加しました。

今回は、渡部和子さんを講師に、子どもが虫歯にならないためのおやつの取り方や歯の磨き方について、イラストや模型を用いて講話が行われました。

講話後、参加者は、日頃気になっていたことを相談するなど、今回の活動を通して、幼児期の歯の大切さと虫歯予防の重要さを改めて確認しました。

町民みんなの歌声を一つに「只見の歌（仮）」レコーディングを行いました

「只見の歌（仮）」のレコーディング（歌の録音）が、６月２日から４日まで朝日公民館で行われました。

「只見の歌（仮）」は、NHKEテレ「おかあさんといっしょ」で２０１４年から２０１９年まで行われていた体操「ブンバ・ボーン！」の作詞・振り付けなどを手がけた「たにぞう」氏が楽曲の提供をしました。

今回の楽曲作成は、町民みんなが参加できる内容となっており、曲に合わせて身体を動かすことで子どもたちの発育・発達を促すことを主な目的としています。また、楽曲に合わせ、子どもからお年寄りの方まで皆が楽しく歌って踊れるダンス指導も予定されています。

▲子どもたちもレコーディングに参加されました

ご寄贈ありがとうございました

書籍「縄文世界への旅　わたしの奥会津紀行」を寄贈いただきました

荒尾駿介氏（二本松市）から自身が記した書籍「縄文世界への旅　わたしの奥会津紀行」を寄贈いただきました。

奥会津を紹介する本に目を通した荒尾氏が、奥会津を実際に旅し、奥会津地域の歴史や文化に触れて感じたことやその土地で生活を営んできた人へ思いを馳せたこと等が綴られています。また、荒尾氏は只見町にも訪れられ、叶津番所や只見駅など町内数カ所を巡り、感じたことも記しています。

この度のご寄贈に感謝いたします。ありがとうございました。

▲あとがきには、紀行を執筆された後にも奥会津を訪問されたことが綴られており、書籍内には素敵な写真が掲載されています

子どもたちが頑張っています

スポーツ少年団 剣道・ソフトボール 優勝

三瓶旗少年剣道大会は５月２１日に会津若松市の若松商業高校で開催され、県内各地から参加者が集まる中、只見剣道スポーツ少年団が小学の部で優勝しました。当大会が４年ぶりの開催ということもあり、全団体がいつも以上に気合を入れて大会に臨みましたが、只見剣道スポーツ少年団も負けずに日頃の練習の成果を出し切り、優勝旗を持ち帰りました。

ＪＡ会津よつば組合長杯チビッコソフトボール大会は６月１７日に南会津町のびわのかげソフトボール場で開催され、郡内７チームが参加する中、只見スポーツ少年団（ソフトボール）が優勝しました。日ごろから一生懸命に練習を積み重ねたところに、チームメイトや保護者の応援が相まって、郡内１位のチームに輝きました。

▲只見剣道スポーツ少年団

▲只見スポーツ少年団（ソフトボール）

町内外の皆さんに親しまれる只見音楽研究会
「結成６０周年記念演奏会」開催

只見音楽研究会は「６０周年記念演奏会」を６月４日に只見公民館集会室で開催しました。

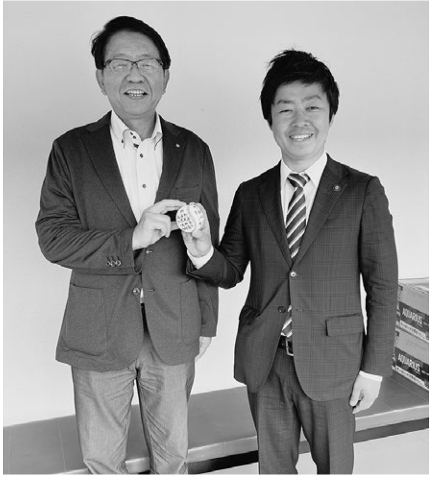
只見音楽研究会は、昭和３６年に結成されて以来、「音研」（以降音研）の呼称で町内外の多くの方に親しまれ、令和３年に６０周年を迎えました。しかし、新型コロナウイルスの影響により活動が思うように行えず、本年に記念演奏会が行われました。

演奏会には町外からのファンも訪れ、来場者は２００人を超え、立ち見の人がいるほど大盛況でした。

音研の目黒俊行さんは「多くの方に支えられ、皆さんとともに迎えた６０周年です。改めて、皆さんに感謝いたします。音研は私にとって人生そのものです。メンバーであることに誇りを持って、火を絶やさないようにしていきたい」と話しました。

▲只見町の皆さんだけでなく、多くの方に笑顔と感動を届けた演奏会になりました

三条市と只見町の懸け橋に
三条市高校野球交流大会に只見高校が招待されました


▲両市町の思いが刻まれたボールを手に記念撮影をした両市町長

三条野球連盟は６月１０、１１日に三条パール金属スタジアムで「三条市高校野球交流大会」を開催し、只見高校野球部が招待されました。

只見高校野球部は、２日間で三条市内の４校と対戦しました。

また、初戦の始球式は、滝沢三条市長が投手、渡部只見町長がバッターを務めました。

滝沢市長は、「両市町が八十里越開通に向け機運を盛り上げていくきっかけにしてほしい」と話しました。

朝日地区地域づくり委員会
環境大臣賞表彰受賞

朝日地区地域づくり委員会が、地域環境美化功績者として環境大臣賞に選ばれ、その伝達式が６月２６日に行われました。委員会を代表して、目黒俊行会長が表彰状と記念品を受取りました。

目黒会長は「毎年、ちょボラなど環境美化運動に取り組む地域の皆さんの努力の賜物だと思います。この表彰に恥じないように引き続き頑張ります」と話しました。

▲町長から伝達を受けた目黒会長

どんな生きものが生息しているのかな
明和小学校 田んぼの生きもの調査活動 実施

明和小学校３、４年生が、田んぼに生息する生き物の多様性について理解を深めることを目的に、馬場由人さん（梁取）の田んぼで生きもの調査をしました。

調査には、明和地区の農家の方やアクアマリンふくしまの学芸員の方、南会津農林事務所に協力をいただきました。

児童は、採取した水生生物について学芸員に次々と質問し学びを深め、活動後には「貴重な生きものがいました」、「外来種の意味が分かりました」等の感想を話しました。

▲水生生物を採取する児童達

登山シーズン到来
只見四名山で山開き 癒しの森と恵みの森で森開き 実施

▲式典が行われた要害山の山開き

只見四名山の要害山（５月１４日）、蒲生岳（６月４日）、会津朝日岳（６月１１日）、浅草岳（６月２５日）で山開きが行われ、癒しの森（４月２９日）、恵みの森（５月２７日）で森開きが行われました。

各イベントでは、登山カードと引き換えに、登山バッジが配布されました。また、要害山の山開きでは、式典が行われ、登山者の安全祈願などが行われました。

登山者は、登山道沿いに生息する草花を観察したり、道中で眼下に広がる景色を望んだり、また登山者同士で会話を交わすなどしながら、登山を楽しみました。

安全な伐採の仕方を楽しく学ぼう
三島の山学校 只見出張編 開催

合同会社遊心（只見町）の主催で「三島の山学校 第１回只見出張編」が６月４日に只見赤沢地内で開催されました。

講師はアイパワーフォレスト株式会社の社員が務めました。

午前中はチェーンソーの手入れや目立ての仕方などの安全講習が行われ、午後は枝打ちや玉切りなどの実技講習が行われました。

参加者は、「チェーンソーの扱いを学ぶ機会が無く独学で使用していたので、改めてチェーンソーの扱いを学ぶことができて良かったです」と話しました。

▲子どもたちも講師のお話しに耳を傾けていました